

発信年月日：令和5年9月26日

所属部課	課長	担当職氏名	連絡先	TEL 0837-23-1264
教育委員会 生涯学習・文化財課	大嶧 聡	文化財保護室（古代担当） 新江田 智司		FAX 0837-22-3700
件名	里帰り企画 おかえり！雨乞台遺跡の石器たち 記念講演会の開催について			

下記のとおり開催しますので、当日の取材方よろしく願いいたします。

- 日時 令和5年10月14日（土）10：00～12：00（受付は9時40分～）
- 場所 長門市総合文化財センター（ヒストリアながと）
長門市東深川2660番地4
- 参加者 対象：一般・中学生以上
- 主旨 1万6千年以上前の旧石器時代に人々が住んでいた雨乞台遺跡（長門市日置）。本遺跡で採集された石器類の多くは、山陽小野田市歴史民俗資料館に収蔵されています。このたび、約40年ぶりに長門市に里帰りを果たしました。これらの石器の中には、長門地方では産出されない石材が数多く見られます。1万年以上も前の時代に、雨乞台に住んでいた縄文人は、命がけて海を渡り、石器の素材を探しに行っていたことが想像できます。展示される石器類から、当時の人々の生活や他地域との交流を考えてみましょう。
- 講演内容 演題 『海をわたってやってきた石 ～雨乞台遺跡の魅力～』
講師 塚本史晃 氏（山口県埋蔵文化財センター専門職員）
講演会終了後、館内展示品を見ながらのギャラリートークを開催
- 主催 長門市教育委員会
- その他 【雨乞台遺跡】長門市日置の雨乞台遺跡は、県下では珍しい縄文時代早期の「撚糸文土器」が出土して注目を集めた遺跡である。さらに県下初の「国府型ナイフ」と呼ばれる後期旧石器の石器も発見され、一段と脚光を浴びることになった。特に使われている石材については、県内産に加え、大分県姫島や佐賀県腰岳の黒曜石など、遠隔地からの石材も多量に使われていることに目を引かれる。この遺跡は戦後に外地からの引揚者が入植し、植林用の苗場として開墾を進めた過程で少しずつ姿を現していった。昭和45年、当地から石鏃が発見され、それ以降、地元の中学校社会科クラブ、山口大学人文学部考古学研究室の発掘調査および河野豊彦氏（山陽小野田市）の遺物採集により、旧石器・縄文・弥生時代の各時代にわたる遺跡であることが判明した。